

吉川市パートナーシップ 認証制度の早期導入を



五十嵐 恵千子

問 令和元年9月議会一般質問で取り上げて以降「レインボーさいたまの会」からのLGBT（性的少数者）に関する要望書を市へ提出→令和2年3月議会では請願が市議会へ提出され採択→令和2年9月議会でも再度、早期導入を要望したところ、「市民の意向を踏まえ、丁寧に検討」とのご答弁をいただいていた。導入への進捗状況と今後のお考えを伺う。

答 今年8月に「人権施策推進本部」において導入に向けての検討が承認されたことから、今後、パブリックコメントの実施や関係団体等と調整し、今年度内の導入に向け取り組む。

◆医療的ケア児の支援強化を

問 医療的ケア児支援法に基づき支援強化を。

答 市内小学校における医療的ケア児の円滑な実施に向けた様々な準備を進めている。

新型コロナ感染症対策・ 対応について



小野 潔

問 ①ワクチン接種の現状と見込み。②妊産婦の優先接種は、若者への接種勧奨でインセンティブをとの考えは。保健所機能ひっ迫時の自宅療養者対策のパルスオキシメーター、食糧は、酸素ステーション、中和抗体カクテル療法等医療への誘導は。③小中学校へ配布の抗原検査キット利用の考え方は、感染予防率の高いといわれる不織布マスク利用の啓発に力を。④販路開拓をする事業者へ上限30万円を補助する事業発展支援補助金を使い農業事業者のスマート農業化への推進を。

答 ①予約状況は現在66%、希望者全員の接種は11月中旬頃75%が見込まれる。②妊産婦・同居者へ優先し現在264名が接種、インセンティブは差別にならないよう、医療支援は保健所、県の宿泊・自宅療養者支援センターが拡充され経過観察協力医療機関を通じ行う、市は自宅療養者の情報を県より提供を受け食糧等の生活支援を行う。既に8月13日より支援を開始、今後も状況に応じ対応。③キットは原則教職員へ、4年生以上の児童生徒で補完的に利用、不織布マスクの啓発に努める。④スマート農業化への利用可能、周知も図る。

教育部と市長部局の連携で 子どもを守り育てるために



林 美希

問 虐待、いじめ、望まない妊娠を防ぐために「子どもが自らの心身を大切にできる」「子ども自身が気付くことができる教育」「子ども自身が通告できる仕組み」が必要と考える。教育部と子育て支援の観点から見解と取り組みを伺う。

答 教育部としては、学校では子どもの自己肯定感を育てることを大切に、相談しやすい環境づくりに努めている。いのちの授業を行っている学校がいくつかある。保護者向けとして家庭教育や生涯学習からもできることを検討する。

子育て支援としては、児童の権利を守るため児童虐待を防止することを使命に取り組んでいる中で、気付きのためのリーフレット、連絡先が掲載されたグッズの作成と配布を検討している。就学前の子どもや義務教育終了後の若者に対する性に関する支援も有効策を検討する。

緊急対策として カーブミラー電柱に目印住所を



大泉 日出男

問 事件事故の際に電柱に管理番号を伝達することで場所の特定ができるが、より詳しく現地を特定する必要がある。現状は、表示が地名のみ、薄くて見えない場合など不便。特に携帯電話を持ってない場合や県外から来る方は不便と考える。市の認識と課題があるのか伺う。

答 市内全域の住所明記までは把握していないため、消防と連携をしつつ今後の運用について研究していきたい。

◆通学時の安全対策について

問 今年6月千葉県八街市、下校時での惨事を受け、当市ではどのような受け止め方や対策をしており、PTAや地元からどのような要望があるのか伺う。また飲酒運転撲滅や根絶に向けて考えている対策を伺う。

答 今回の事故を受けて当市においても重く受け止めており対策には最大限、取り組んでいく。

特に本年は5年に一度の総点検をしていて、様々な視点から見直しがある。県と市の整備箇所としては62カ所、地域ごとに状況が異なる。PTAとも連携する。今後は継続して啓発チラシや諸活動で認識を深めていく。